

CONTENTS

COMBAT

2014.Oct.
No.463

10

Cover Design
favorite graphics (tamao ito),
Cover Photo
morizo (東京装備BAKA)
Model
TAROS(SOD) MISU(SOD)
©WORLD PHOTO PRESS 2014

※本文中の価格は消費税込みの
総額表示です。



【第1特集／ミリタリー】

CRYE PRECISION MANIACS 2

クライ・マニアックス ②

現用装備界のトップを独走するブランド「CRYE PRECISION」。
オリジナリティを最大の武器とするクライのマニアックな世界にひきこまれた
東西の有名コレクターが自らのコレクションをもとに深掘りする特別企画の第二弾

008 月刊・自衛隊

につぼんのちからこぶ

●取材:菊池雅之

056 The Equipments of the U.S. Force

【現用米軍装備カタログ】第121回

現用特殊部隊が使用するアンテナ・通信機器

ポータブルUHF SATCOMアンテナ

●解説:松原隆 ●撮影:山崎 学

070 MOLLE IS NO RULE!

攻めのバッグ MOLLEシステム

085 Militaria Roundup!

復刻版ドイツ軍軍装／ノルマンディ1944 Part.1

●解説:菊月俊之

【第2特集／トイガン】

034 東京マルイ

GAS BLOW BACK

M4A1 MWS

●Photos&Text by Taku

040 WESTERN ARMS

キンバー〈エクリプス・カスタムⅡ〉

●Photos & Text by SHOTGUN MARCY

045 WESTERN ARMS

STIタクティカル4.0〈コスタ Ver.〉

●Photos & Text by SHOTGUN MARCY

028 【第3特集／SurvivalGame】

皐月の空にヒストリカルの風!

PHS-4

●Photos&Text by DUKE Hiroi

074 UOC HG#01

UNKNOWN OPERATORS CONVENTION

●Fujiwara

004 COMBAT FRONT LINE

026 東京マルイ フェスティバル in 秋葉原

052 Goods & Accessory

066 世界の兵士図鑑

イスラエル国防軍

●イラスト・解説:坂本 明

084 サープラスいじり技術研究所

●写真・文:織本知之

096 PRESENT

130 トイガンニュース

130 WA 10-8パフォーマンス〈1911〉

131 WA MEUピストル アーリー&ミッド〈バトルダメージVer.〉

132 WA セリエント・アームズ〈1911コマンダー・レングス〉

132 WA ウィルソン・コンバット〈センチネル〉

133 マルゼン ワルサーP-38

134 CAW デトニクス

135 CAW CAW MARUI M870シリーズ木製ストックバリエーション

136 タナカ M24 SWS AIR〈エア・コッキング・ガン〉

137 タナカ S&W M36 チーフ・スペシャル&S&W M40 センティニア

138 兵装嗜癖

●by Fujiwara

140 monoショップ新聞

142 PROJECT NINJA

●Tokyo Equipment Stupid

184 中田商店グッズ

186 S&Grafグッズ

097 GAME OVER THE TOP

100 ふれんどりっファイヤー!

108 ミリタリー雑学講座

112 蛙のゆびさき(中山 蛙)

116 アメリカGUN事情 Guns Talk from US

118 戦車兵通信 WORLD OF TANKS

120 物欲ワンホール

ROUND 36:フラッシュライトについて

トイガンズジャンクション

バックナンバーリスト

帰ってきた 狩野健一郎の[監督、そこにおっぱいは必要ですか!?]

レア・ミリタリー・テクノロジー

狩野健一郎のシネマ放浪記

狩野健一郎の新作DVD紹介

ブラックホール2014夏

A STITCH IN TIME

読んで覚える TakuのHOW TO Shooting 射撃のススメ

コンバットマガジン・インフォメーション・センター

読者プレゼント応募方法

編集後記





特集

CRYE PRECISION MANIACS 2

クライ・マニアックス 2

現用装備、台風の目ともいえるブランド「クライ プレシジョン」。

今回は本誌初出しのミステリアスなプロトタイプ迷彩から、

同ブランドお得意のプレキャリ、ベストを徹底解剖。

クライ好きのクライ好きによる、マニアックな世界の第2弾。

●解説:松原隆 ●撮影:山崎学

米 軍現用装備マニアにとって1990年代のオートクチュール（高級仕立）といえばEAGLE industries社、そして後期にはSOTECH Tactical、PARACLETEということになる。そして、今世紀に入って間もなくマルチカム迷彩とともに登場したクライ社。2004年以降は間違いなくCrye Precisionの時代である。EAGLE industriesは最新素材研究のNatick研究所や装備デザイン（MLCSやMBSS）研究のAllied Industriesがバックにつき、それこそ鬼に金棒状態。EAGLE industriesが生産する製品のほとんどが兵士のためのエクスクルーシブ製品といえるだ

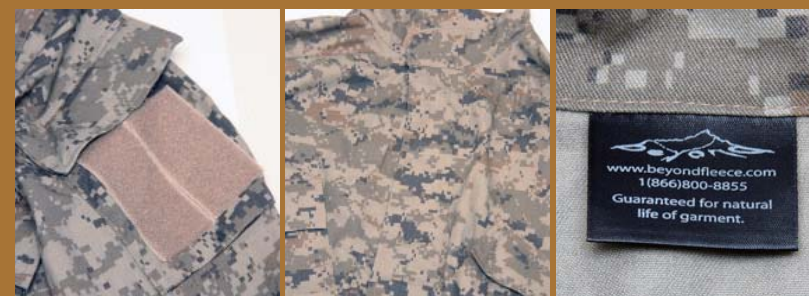
ろう。軍支給が目的なら、デザイン使用料を不要とする制度を利用したのがLBTやBHIと見るならばこの2社はEAGLE industriesよりも格下と見るしかない。そんな僕の中の不動の存在EAGLE industriesを脅かしたのがS.O.TECHだ。軍デザイン＝使いやす＝大雑把のイメージがこのS.O.TECHの手にかかると豪華で緻密なデザインへと変貌する。今でこそ少し寂しいS.O.TECHだが当時はPARACLETEと並んで新製品を見るたびに狂喜したものだ。しかしここまでは「町工場クラス」のオートクチュール。Crye Precisionの登場でこれまで

Beyond Tactical新型迷彩 Black AORプロト迷彩登場

次期迷彩のひとつとしてBlack AORが本誌初登場。ビヨンド社がCrye Precision社から迷彩生地を供給してもらい制作したものと思われる。それ以外はまったく謎の戦闘服となっている。

の軍用製品のイメージが一変する。防弾ベストから戦闘服に最新迷彩色までオリジナルデザインを開発し、どの製品ひとつ取っても斬新なアイデアが盛り込まれている。しかも即特殊部隊納品アイテムが特盛状態のラインナップ。LBTやBHIが数年かけて特殊部隊向けに供給してきた努力を一瞬で塗り替えたような会社、それがCrye Precisionだ。

こちらの画像は黒い部分を見やすくするためにコントラストを変えてみた。実際のオリジナルカラーはBDU全体画像に近いものとなる。一番暗いブラック部分は肉眼では焦げ茶色に近い。生地ベースになるカーキ色部分は現在のAOR1よりもかなり暗くなっている。肩ポケット・ベルクロ部分は通常のBeyond Tactical製品の裁縫ならばクロス(X)字にしっかり裁縫されているのだが、こちらは無し。メーカータブの裏側にはサイズ表記タブがあるのだが、何故かこの会社のサイズはUSサイズよりもふた周り大きい。Mサイズ表記ならUS・XLサイズに匹敵するので今後同社のBDUを購入する機会があるなら注意が必要だ。今回の迷彩色はプロトタイプということなのでDG-LCSキットにこの迷彩色があるのかは不明だが、もしも存在するならばマニアとしては暗く長く険しい道が待っているということだ。



本誌初登場!!
謎の戦闘服
Black AOR



PHS-4

皐月の空にヒストリカルな風!

● Photos & Text by DUKE Hiroi ● 主催 : project PHS(<http://phs.militaryblog.jp/>)



早朝より……というか前日より集まった参加者たち。元気イイね!



主催であるHaru女史のブリーフィング。

昨今、ヒストリカルと銘打つイベントが目につく。リエナクト・イベントやヒストリカル・イベントを長年牽引してきたデュークには心地よい風である。そこで今回、「PHS (プチヒストリカルサバゲー)」なるイベントの潜入レポートをお送りしたい。今回のタイトルは「PHS-4」、即ち4回目であり、回を重ねるごとに参加者数が増している。実はデューク、以前よりこのイベント



Game Start!!



当たったらヒットとはいわず、派手に倒れましょう!



参加将兵のカッコイイところをたっぷりどうぞ



に興味を持ち第2回から顔を出していた。つまり参加者が増加していくのを目の当たりにしていたのだ。このイベントの魅力とは何か? リエナクターとして、そして実際にヒストリカルゲームを運営するイベンターとしての興味は尽きない。

ゴールデンウィーク真っ只中の5月3日、サムズミリタリ屋の出店参加も含め、盟友ルーキー森本とともに嬉々

として開催地のサバイバルゲームフィールド デザートストーム川越に向かった。

フィールドに着いてビックリ! 昨夜からのキャンプ組が大多数。完全にヒストリカル・キャンプである。しかも前回より参加者が多い……。また増えている。多くの新顔の中に馴染みの顔がチラホラという感じではあるが見え、正直ホッとしたデュークであった。

挨拶もそこそこにデュークはこの成長するイベントの開催意義を単刀直入に主催者であるHaru女史に話を伺った。そう、イベントの主催は女性であった。しかも完璧な第2次世界戦時のアメリカ陸軍第101空挺師団空挺隊員のリエナクターがそこにいたのである。

Haru女史曰く、「PHSはコンセプトとして『WWII好きの、WWII装備でサバゲーをする者の、WWIIヒストリ

TOKYO MARUI

●東京マルイ ☎03-3605-3312
http://www.tokyo-marui.co.jp/
●Photos & Taku by Taku

GAS BLOWBACK

M4A1
MWS



M4A1 MWSの特長のひとつでもある極太の14.5インチ・バレルにバードケイジ・タイプのフラッシュハイダー。アルミ削り出しで精度バツグン。

満を持して東京マルイが送り出すガスブローバックM4登場!!

ガンマニアと呼ばれる人の多くはM4系アサルトライフルが好きだ。断言してしまうが好きなのだ。中にはAKやH&K、スタイアーなどのファンもいるようだが、割合的にはM4系が5割で残りを他のメーカーで占めている。もちろんM4系が心底嫌いという人もいたが、多くのガンマニアは好き嫌いにかかわらずコレクションの中に大抵1挺はM4系のモデルがあったりする

ものなのだ。

なぜここまで断言するかというと、国内メーカーのほとんどがM4もしくはM16のアサルトライフルをモデルアップしている。他社が同じモデルを出してるのに発売するということは、それだけ人気が高いことの証拠だろう。

東京マルイでもエアコッキングガン、スタンダード電動ガン、次世代電動ガン、10歳以上用シリーズなど、さまざまな

ジャンルでM4系をモデルアップしてきた。そしていよいよ「ガスブローバック マシンガンシリーズ」の第2弾モデルとして『M4A1 MWS (Modular Weapon System)』を発売する。

東京マルイのガスブローバックモデルの評価は高く、アサルトライフルモデルの発売を心待ちにしていた。一昨年ガスブローバックのMP7A1が発売されたことで、その期待はますます高まりを



R.A.S.もアルミ削り出しによるもの。上下左右4面にピカティニー規格のレイルマウントを配している。

米軍制式採用のセラコート塗装が施されているので、少々ツツけたくらいではキズひとつつかない。刻印も実銃のロールダイ特性を打刻により再現。

UOC HG #01

UNKNOWN OPERATORS CONVENTION

UOC 動画公開中!!
YouTubeにて「UOC HG」で検索!!



NEW GENERATION STYLER
Photo & Text : fujiwara [Dazzled Eyes Designs.]